校長講話資料　　2020.5.12（火）

内なる“羅針盤”を持て！

郡山市立小原田中学校長　熊 坂　　洋

元気ですか？みんなの顔を見ると、ほっと安心します。
この臨時休業中の生活はどうですか？計画通りに過ごせている人、やや計画通りにはいっていないが、だいたいできている人、手伝いを一生懸命やっている人もいることでしょう。逆に夜更かししたり、ゲームの時間が多くなったりして、生活のリズムが崩れている人など、それぞれだと思います。今日は、ここで一度立ち止まって、今までの自分を振り返り、次のステップに進むための場にしてほしいと思います。

生徒のいない学校…なんて味気ないものだ、と思います。
「学校は、生徒のみんながいて、はじめて“学校”と言える」ということを痛感する毎日でした。仲間と共に過ごすところに学校の存在意義があります。そんな中で、学校再開に向けての動きが少しずつ出てきました。
さて、中学校の最大かつ最終的な目標は、自分自身の進路目標の達成です。
毎日の授業を通して、生活を通して、係活動を通して、部活動を通して、そして、人とのつながりを通して、たくさんのエネルギーを吸収して、自分のものとしていく。それは成功体験でも、失敗体験でも…。それらが、やがて、これからの自分を良き方向へとコントロールする力となります。その拠り所となるのが、きみたち一人一人の『羅針盤』なのです。磁石の針が方角を指すことを利用して、船や飛行機の進路を測る器械のことを『羅針盤』と言います。自分の定めた進路目標に挑戦していく…先輩たちもみんな通った人生最初の大きな関門です。この大きな関門へのチャレンジはもうすでに始まっています。そして、自分の『羅針盤』をもつために、何が大切なのか、考えてほしいことがあります。

幸せも不幸せも、喜びも悲しみも、苦痛も苦悩も、満足も不服も、誰かが外から自分にもたらす、そう思っているなら、それは大間違いです。一見そう見えるだけで、あらゆる思いや感情の大部分は、自分自身からやってくるのです。

「人」は決して一人では生きていけません。「人」は自分で「生きる」のと同時に、「生かされている」のです。家族、友達、先生など…自分のまわりにはたくさん人たちがいます。…これらの人々に「生かされている」自分に気付くことができるかどうか、それがとても重要なことだと思います。我々大人を含め、目先のことにとらわれたり、自分しか見えなかったりして、「生かされている」自分に気付くことができていない人がよくいます。
「生かされている」自分が自覚できる人こそ、他の人を大切にすることができ、支え合える「仲間」をもつことができるようになるではないでしょうか。さらに、「生かされている」自分に気付けた人は、今という「時間」も、自分が今いる「居場所」（教室、学校など）も大切にできます。そして、真の意味で「自分」も大切にできるのです。そんな気持ちを持てる「人間」は、きっと自分の生き方に対しても、逃げることなくしっかりと向き合っていくことができるのだと思います。
制限、自粛、我慢など、どうしてもネガティブになってしまう生活が続きますが、こんな時だからこそ、自分の進むべき道や自分がとるべき行動をしっかりとコントロールしてくれる『羅針盤』をつくってほしい。一人一人が内なる『羅針盤』（自分自身を上手にコントロールするための軸）をもってほしいと思います。

学校再開後も、行事等の中止や延期、内容や方法を見直しての実施など、通常とは違う学校生活になりますが、３密の回避や手洗いの徹底など、感染症対策には気を緩めることなく取り組んでいきましょう。
また、テレビ等を観ていると、連日、新型コロナウイルスに対して、様々な人達が様々な事を言っています。中には無責任な発言も見られます。この先どのようになっていくかは誰も分からない状況の中、確かなものは“今”しかありません。“今”を確実に過ごしていく（生きていく）ことが大切です。